

ARTA



AUTOBACS
RACING
TEAM
AGURI

sparco

Mobil

HONDA

ARTA

CVSTOS BRIDGESTONE

AUTOBACS



Mobil

「試練に打ち勝つ」

2019 ARTA DIGITAL Rd.2 FUJI
GOING THROUGH THE TRIBULATION

霊峰富士の山麓へやってきた ARTA の戦いは、開幕の岡山に続きまたしても雨に祟られることになってしまった。

大荒れの開幕戦を制した GT500 クラスの 8 号車 ARTA NSX-GT は、前日の予選で 10 番手に留まってしまったがトップとのタイム差は 1 秒以内。500km の長丁場でなおかつ雨となれば、十分にチャンスはある。

GT300 クラスの 55 号車 ARTA NSX GT3 も予選ではアンダーステアの症状が強く、福住仁嶺が Q1 を突破し高木真一が Q2 で 7 位に入るのがやっとだった。しかしこちらもレースペースには自信を持っていた。

ARTA

FUJI SPEEDWAY



AUTOBACS
RACING
TEAM
AGURI

ARTA



AUTOBACS
RACING
TEAM
AGURI

ARTA

決勝のスタートを前に、富士の雨は強くなってきた。

セーフティカー先導でレースのスタートが切られたが、3周目からレース開始となる。

一瀬俊浩エンジニア「この周 SC 入ります」

高木「これはヤバイよ……」

一瀬「了解、頑張ってください」

この雨脚のウェットコンディションではタイヤの温まりが悪く、グリップに苦しみコースオフしそうになる場面もありながらも高木はポジションをキープしていった。

一瀬「今ポジション3。上位のGT-Rは48秒後半で走ってます」

高木「この雨だとタイヤは温まらない、どんどん冷えてっている感じがするからプッシュするよ」

一瀬「了解です。ホームストレート上は雨量が増えているので気をつけてください」



AUTOBACS
RACING
TEAM
AGURI

ARTA

8号車も集団の中で僅かな接触があり、スタートドライバーの伊沢拓也は右のミラーを失っていた。

伊沢「ああ、右のミラーが取れた！」

星学文エンジニア「了解、了解。ここ頑張ろう！」

伊沢「もう何も見えないよ、もう前が見えなくなってきたよ」

星「後ろは3号車、すぐ後ろにいるよ。ミシュラン勢だけペースが良い。ここから300が出て来ます」

伊沢「了解、黄旗はもう見えないからね」

星「雨量がちょっと多くなってきているけど、さっきの周回は伊沢くんが全体で一番速かったよ」

伊沢「了解」



AUTOBACS
RACING
TEAM
AGURI

ARTA



AUTOBACS
RACING
TEAM
AGURI

ARTA

しかし雨脚だけでなく雷鳴まで強くなりはじめ、レースコントロールは走行が危険と判断して12周目でセーフティカーを導入。伊沢「他よりもトラクションが良いんだよね。立ち上がり重視で真っ直ぐ走って上げるとトラクションがすごくかかる、このSCは雨量が多いから？」



星「そう、あと1時間くらいはこんな感じで続きそう」

伊沢「ヤバい雨量だね、これは」

星「了解、とにかくコースに留まってね」



AUTOBACS
RACING
TEAM
AGURI

ARTA

そう言っていた矢先、伊沢はコースを横切る川に乗ってスピンを喫してしまった。

他にも何台も同じようなスピン状態に陥り、レースは赤旗中断となった。

伊沢「ごめん、スピンした！」

星「大丈夫？ 戻れる？」

伊沢「戻ってる、39の後ろにいる。申し訳ない」

星「了解、大丈夫だよ。どこのコーナー？」

伊沢「最終手前のターン14を立ち上がったところ」

星「ポルシェもスピンしてる。赤旗になりました、赤旗です」



AUTOBACS
RACING
TEAM
AGURI

ARTA

レースが中断となるくらいのコースコンディションであったにも関わらず、セーフティカー先導中に十分な安全確認を怠ったとして伊沢にはピットスルーペナルティが科されることになってしまった。

星「SC 中の-spin はドライブスルーペナルティが出る」

伊沢「逆になんで岡山では出なかったんだろう？」

星「分からないね、そこは。SC が明けたら他が温まらないうちに消化しちゃうのが良いね」

伊沢「ホントすいません、取り返します！」

星「そうだね、まだまだ先は長いから頑張ろう。」

あと20周は行けるよ。前は中企で20秒。頑張りましょう」

約30分の中断の後、レースは再スタート。伊沢はドライブスルーペナルティを消化してポジションを落とす。



AUTOBACS
RACING
TEAM
AGURI

ARTA



AUTOBACS
RACING
TEAM
AGURI

ARTA

野尻智紀が担当する第2スティントへのピットストップが近付いて来ているが、路面が乾き始めているだけにドライバー交代とスリックタイヤへの交換のタイミングを合わせたいところだった。星「徐々に路面は乾いてきてる？このスティントを目一杯引っ張って、野尻にドライタイヤでつなごうと思っています」



AUTOBACS
RACING
TEAM
AGURI

ARTA



Arai

Arai

ARTA
BRIDGESTONE
CVSTOS

B

55-1

5

meo



AUTOBACS
RACING
TEAM
AGURI

ARTA

状況は GT300 クラスの上位を走る 55 号車も同じだった。
前の GTR はストレートが速く、高木はなかなか抜けずに苛
立ちが募る。

土屋「真一、ストレートは追い風。スリップストリーム効
くからね」

高木「何だ、押し出しやがった、アイツ！」

一瀬「了解了解、落ち着いて行こう」

高木「1 台分空けとけよ！」

一瀬「このあとは雨が来なさそうなので、ドライになるま
で引っ張ってピットインしようと思います」

高木「了解」

一瀬「タイムはウチとレオンだけが速いから大丈夫。この
まま行きましょう」

高木「ストレート速いんだもん、コイツ……」

土屋「プレッシャー掛けてれば絶対ミスるから。

スリップ入れば大丈夫。プレッシャーかけ続けよう」

高木「多分ダメだね、タイヤが厳しい。ピットの用意させて」



AUTOBACS
RACING
TEAM
AGURI

ARTA



AUTOBACS
RACING
TEAM
AGURI

ARTA

土屋アドバイザーは根気強く攻めて行けとアドバイスするが、そうこうしているうちにタイヤが限界に達して高木はピットに飛び込むことになった。

37 周目、福住は 55 号車に乗り込みスリックタイヤを履いてコースへ。

コース上のレーシングラインは乾いているがそれ以外は濡れており、一歩踏み外せばグリップは極めて低い。

土屋「仁嶺、1 コーナーは気をつける。スリックだぞ、冷えてるぞ！」

福住「了解、恐〜い！ メッチャ恐〜い！（苦笑）」

土屋「頼むよ！ 乾いてるラインを探して熱を入れていくように。乾いているラインは外すなよ、500 が来ても絶対に避けるな」

福住「了解。フロントが食いつかない。後ろは大丈夫。全然ドアンダー」

土屋「熱が入るまで我慢だよ」



AUTOBACS
RACING
TEAM
AGURI

ARTA

最初は「80%くらいで走って」いた福住だが、プッシュを開始。しかし今度はリアタイヤのグリップが低下してマシンバランスが難しくなってしまった。

福住「ドオーバーでキツイなあ」

一瀬「でもタイムは良いよ」

土屋「9秒フラットで走ってるのはお前だけだよ。他は9秒後半だから」

一瀬「トップのGT-R2台は25秒先」

福住「遠いな……」

一瀬「ちょっと速いからそこは考えないでいこう」

12番手でコースに戻った福住は好ペースで4位まで挽回。

一瀬「フロント無交換か4輪無交換も考えてる。あまりにバランスが悪いようならリアだけ換える」

タイヤの状況が良かったため、一瀬エンジニアは福住と相談した上でタイヤ無交換作戦の敢行を決断した。ポジションを上げるためには大胆な戦略が必要だった。

福住は71周目に再び高木にステアリングを譲り、チームは給油だけでタイヤ交換を行わず。レース終盤はかなり苦しい戦いになることが予想された。



AUTOBACS
RACING
TEAM
AGURI

ARTA

 S.Takagi  N.Fukuzumi



AUTOBACS
RACING
TEAM
AGURI

ARTA



一方、8号車のステアリングを握ってドライタイヤでコースインした野尻は堅実で順調な走りを見せ、5番手まで順位を上げていった。

星「前は6号車でギャップ6秒。良いペースだよ。前の6号車はペナルティを受けるので、その前の16号車がターゲット。ギャップ4秒」

野尻「俺16号車よりも速いんだよね？」

星「速いよ、ギャップは4秒を切った」

そして80周目まで走って伊沢にバトンを繋ぐ。

8番手でコースに戻った伊沢は復帰直後に1台の先行を許してしまった。

上位勢以上のペースで走ることは難しかった。

伊沢「ごめん、抜かれました」

星「了解、まだ9番手だからね」

伊沢「どのくらいのペースで走ってる？」



AUTOBACS
RACING
TEAM
AGURI

ARTA



AUTOBACS
RACING
TEAM
AGURI

ARTA



星「後ろ 6 号車は 2 秒 8。1 号車が 1 秒 5、17 号車が 1 秒 6」

伊沢「了解、ちょっともうこれが精一杯だわ……」

それ以上の追撃は難しく、9 番手のままチェッカーダフラッグを受けることになった。

星「お疲れ様でした。ポジション 9。ごめんなさい、最後はソフトの方が良かったね」

伊沢「でも野尻はちゃんと走っていたからね、ごめんなさい」

星「いや、最後に路面温度も下がっていたんだよね」

伊沢「最悪の展開だったね……」

豪雨の中での不可抗力のスピンドペナルティを科されて大きく順位を落とし、最後はコンディションも味方してくれなかった。



AUTOBACS
RACING
TEAM
AGURI

ARTA

AUTOBACS

HONDA

CVSTOS

THE TIME KEEPER

Panasonic

BRIDGESTONE

Mobil 1

COMTEC

Coca-Cola

PIT-PRO

ProStaff
ENJOY LIFE PRESENTED BY PROSTAFF

Holts

amon
[e:mon]

SDD PREMIER

amsc

DRIVER	TIME	DIFF	POS
1. Aguri	1:10.254	0.000	1
2. ...	1:10.270	0.016	2
3. ...	1:10.280	0.026	3
4. ...	1:10.290	0.036	4
5. ...	1:10.300	0.046	5
6. ...	1:10.310	0.056	6
7. ...	1:10.320	0.066	7
8. ...	1:10.330	0.076	8
9. ...	1:10.340	0.086	9
10. ...	1:10.350	0.096	10
11. ...	1:10.360	0.106	11
12. ...	1:10.370	0.116	12
13. ...	1:10.380	0.126	13
14. ...	1:10.390	0.136	14
15. ...	1:10.400	0.146	15
16. ...	1:10.410	0.156	16
17. ...	1:10.420	0.166	17
18. ...	1:10.430	0.176	18
19. ...	1:10.440	0.186	19
20. ...	1:10.450	0.196	20

ARTA

BRIDGESTONE

HONDA

CVSTOS

AUTOBACS
RACING
TEAM
AGURI

ARTA

そして福住からタイヤ無交換で55号車のステアリングを引き継いだ高木は、リアが不安定なマシンに耐えながら必至で2位を守り続けた。

高木「結構オーバーだねえ、これ」

一瀬「タイヤの摩耗は大丈夫。

ただリアはイン側にちょっとピックアップしていたみたい」



AUTOBACS
RACING
TEAM
AGURI

ARTA

なんとか2位でチェッカーを受けた高木は、思わず雄叫びを上げたほど緊迫したドライビングを続けていた。ドライバーとしての速く走りたいという本能を抑えながら、タイヤを労ってマシンをゴールまで運ぶ仕事を、高木はしっかりと果たしてみせた。そのことを土屋アドバイザーも心から賞賛し感謝の言葉を掛けた。

土屋「真一、ありがとうね。本当に嫌な仕事をやらせちゃったけど、ありがとう。真一のおかげで2位だよ！」

一瀬「お疲れ様です、P2、P2」

高木「うわあ〜！うわあ〜！」

一瀬「(テレビ画面に)映ってます、無交換のタイヤでよくやりました！」



AUTOBACS
RACING
TEAM
AGURI

ARTA



2nd place
FUJI SPEEDWAY

2nd place
FUJI SPEEDWAY

AUTOBACS
Castrol
EDGE
Holts
COMTEC
Coca-Cola
PRO
STOS
Pro Staff

AUTOBACS
Castrol
EDGE
Holts
COMTEC
KENWOOD
Coca-Cola
PRO
STOS
Pro Staff
amor
Rh+B S.T/KAGI
eparco



ARTA



難しい状況の中で9位2ポイントを取ってシリーズランキング3位につけた8号車だけでなく、55号車もギャンブル的な戦略を見事に完遂して2位15ポイントをもぎ取ってシリーズランキング首位に立った。

試練の富士を戦い抜いて得たこの結果は、シリーズチャンピオン奪還という悲願に向かって大きな一歩になった。



AUTOBACS
RACING
TEAM
AGURI

ARTA



AUTOBACS
RACING
TEAM
AGURI

ARTA



AUTOBACS
RACING
TEAM
AGURI

ARTA



AUTOBACS
RACING
TEAM
AGURI

ARTA



AUTOBACS
RACING
TEAM
AGURI

ARTA



ARTA
AUTOBACS
RACING
TEAM
AGURI

IM Power



AUTOBACS
RACING
TEAM
AGURI

ARTA



AUTOBACS
RACING
TEAM
AGURI

ARTA



株式会社オートバックスセブン

ARTA

THE "BIG RACE" FOR SUZUKI AGURI STARTED IN 1998
AS HIS VISION FOR THE FUTURE. OVER THE YEARS, IT HAS EVOLVED
THROUGH THE TOUGHNESS AND WILL OF ARTA. IN THAT SPIRIT,
ARTA IS RACING TO INSPIRE THE FUTURE OF MOTORSPORTS.



ARTA Project



ARTA DIGITAL You tube チャンネル

To Be continued next race...

ZERO
BORDER
Team ZEROBORDER

©2019 ZEROBORDER INC. All rights reserved. No reproduction or republication

Director and Photographer : Masakazu MIYATA

Text : Mineoki Yoneya

Design : Hiroaki KATAYAMA

Special Thanks : AUTOBACS SEVEN CO., LTD